

## 第1回(2010年度)学会認定・輸血看護師試験の結果

2011年5月1日

学会認定・輸血看護師制度  
協議会 会長 大戸 斉  
審議会 会長 田崎哲典  
試験委員長 大久保光夫

### (1) 筆記試験

1. 試験概要：平成22年12月19日実施、試験時間2時間20分、満点100点（選択60、記述40）
2. 受験者数：136名申込、134名受験（欠席2名）
3. 結果：平均点82.86（最高点96点、最低点62点、標準偏差6.63）

### (2) 病院研修

1. 病院研修終了者：病院研修有資格者134名中133名の終了を確認した。
2. 評価項目：評価は①輸血の意義と目的、②血液製剤の取り扱い、③輸血看護、④輸血副作用、⑤輸血検査、⑥血液製剤の準備・払い出し・管理、⑦症例検討の計7項目について、それぞれ a. 特に優れている、b. 優れている、c. 良い、d. 劣る、の4段階で評価された。
3. 結果：134名中、45名(33.8%)が総合評価が(a)と判定された。77名(57.9%)が(b)と、11名(8.3%)が(c)と判定されたが、(d)の判定はなかった。

### (3) 最終判定

筆記試験結果、及び病院研修の評価から、133名が学会認定・輸血看護師として認定された。結果、第1回目の本制度認定試験の最終合格率は、申請者136名中、133名が認定されたことで、97.8%となった。

### (4) 講評

前日12月18日(土)の講習会に続き、筆記試験は翌19日(日)に、埼玉医科大学総合医療センターで行われた。申請者136名中、受験者は134名で、欠席の2名は不合格扱いとなった。試験時間は2時間20分(9時40分～12時)、100点満点で、得点結果は上記の如くであった。分布は正規性を呈し、各問題の正答率等から不適切問題なく、受験者134名が病院研修の有資格者と判定された。

病院研修は事情で受けることができなかった1名を除き、133名が研修をうけ、全員の修了が確認された。総合評価で33.8%は(a)特に優れていると判定され、(d)劣るとされた受験者はなかった。評価項目別にみると、③輸血看護では、約40%が(a)判定で、(b)まで含めると、91.7%は優れていると判定された。①,②,⑦も(a)+(b)がほぼ90%と良好であったが、④輸血副作用については(a)判定が約35%とやや少なく、⑤,⑥はともに25%前後と低く、やはり検査や管理に関し、知識は必ずしも十分でないようであった。

以上、最終的に133名が第1回目の輸血看護師として認定され、学会認定・輸血看護師制度がスタートした。初回受験者ということもあり、何れも成績良好で安全な輸血医療を担うという、積極的で強い意欲が感じられた。既に院内からは輸血に関する質問があり、輸血を含む安全管理に関する会議への参加を求められるなど、反響も大きいようである。また、アフエレーシスナースや自己血輸血看護師の資格も得ようとの機運も高まっている。既に輸血認定医、認定輸血検査技師が活躍されている中、輸血看護師が加わることで、ベッドサイドなど、院内における輸血の安全性は格段に高まり、我が国の輸血医療全般のレベルアップに繋がることは間違いない。